

福岡県の主な農産物の生産状況

平成 30 年 8 月 20 日現在

(専技情報より抜粋)

◇早期水稲（夢つくし、コシヒカリ）◇

4 月中下旬植の「夢つくし」「コシヒカリ」の収穫は、8 月 14 日頃から開始しました。梅雨明け後の高温の影響で、収穫は平年より 2～3 日早まり、8 月 25 日頃までに終了する見込みです。穂数は平年並み～やや多く、倒伏はほとんどありません。出穂後の高温で一部カメムシがやや多いですが、多照に経過し、その他の病害虫の被害はほとんどないため、収量は平年並みになる見込みです。高温が続いているため、刈り遅れにならないよう適期に収穫を行いましょ。また、収穫後は直ちに、適切な乾燥を行いましょ。

◇普通期水稲（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど）◇

出穂期は、6 月上旬植「夢つくし」が 8 月 5～8 日で 3～5 日早く、6 月中旬植「元気つくし」が 8 月 15～18 日で、平年より 1～3 日程度早くなりました。葉いもちやセジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガの発生は平年より少なく、紋枯病、カメムシは増加のおそれがあります。「夢つくし」の収穫は、平年よりもやや早い 9 月中旬が最盛期になる見込みです。出穂・開花期は水を最も必要とするため、十分かん水を行い、その後は間断かん水にしましょ。また、収量、品質向上のため、早期落水は避け、用水確保が難しいほ場では、水尻のせき板を高さ 5 cm 程度に設定し、雨水をしっかり保つように努めましょ。トビイロウンカ、カメムシ、紋枯病の発生に留意し、適期に対策を行いましょ。

◇大豆（フクユタカ）◇

6 月～7 月半ばまで播種のほ場は、概ね順調に生育しています。7 月半ば以降播種のほ場は、7 月 30 日から無降雨が 2 週間続き、土壌の過乾燥の影響により生育が抑制されています。現在、2 葉～開花始期です。雑草の発生は少ないですが、一部、帰化アサガオ類などの雑草が発生しています。病害虫の発生は問題となっていませんが、高温少雨によりハスモンヨトウ、カメムシの発生のおそれがあります。開花期は平年並みの 8 月下旬の予想です。6 葉期頃までに株元まで培土を行い、生育が小さいほ場は、最下着莢高が低くなることから刈取作業に支障がないよう培土は 1 回に留めましょ。開花始期～子実肥大期は乾燥に最も弱い時期であり、本暗渠の栓を閉めて乾燥防止に努め、中耕・培土作業終了後にほ場が乾燥した場合にはうね間かん水を行いましょ。また、雑草・病害虫は発生に応じ、対策を徹底しましょ。

◇イチゴ苗◇

7月上旬の大雨や梅雨明け後の高温の影響で、根傷み等の根部の活性低下により展葉も遅れ、平年に比べて全体的に苗がやや充実不足です。8月中旬から、早期作型では低温処理が始まっており、定植開始は9月10日以降となる見込みです。ほ場の定植準備は順調にすすんでいます。高温少雨によりハダニ類が全体的に発生しており、ハスモンヨトウ、アブラムシ類、アザミウマ類も散発し、炭疽病は一部で発生しています。早期作型では、入庫前の寒冷紗の被覆など高温対策を徹底するとともに、生育に応じて作型を見直しましょう。病害虫対策を徹底するとともに、炭疽病の発生が見られる場合は、発病株の除去を徹底しましょう。

◇アスパラガス◇

夏芽の出荷量は、6月下旬をピークに緩やかに減少しており、10月下旬まで出荷が続く見込みです。高温のため草勢が低下しており、細莖傾向で、曲がりや穂先の開きなどの障害茎の発生が多くなっています。病害虫は例年並の発生であるが、高温少雨により、ハダニ類、アザミウマ類、夜蛾類が発生しています。遮光資材の利用やハウスの換気により昇温抑制対策を徹底し、土壌が乾燥しないよう適度にかん水するとともに、発根を促すなど草勢回復に努めましょう。また、斑点性病害、茎枯病、ハダニ類、アザミウマ類、夜蛾類の対策を徹底しましょう。

◇温州ミカン◇

着果量は、極早生・早生がやや多い、普通がやや多い～多いとなっています。梅雨明け後の高温乾燥により、果実の糖度は前年より高く(早生:8/5 8.0% 前年比+0.7%)、酸度は高夜温の影響によりやや低く(同3.4% 前年比-1.1%)、果実肥大(早生:8/1 41.7mm 前年比-2.5mm)はやや小玉～並みで推移しています。極早生・早生に、日焼け果が一部発生しています。仕上げ摘果は、果実の大きさを参考に、着果量の多い園から行いましょう。マルチ栽培では、果実の肥大、減酸状況をみながらシートマルチの開閉、かん水などの果実品質向上対策を徹底しましょう。今後、カメムシ、ハダニの多発期となるため、早めの対策を行いましょう。

◇ナシ◇

露地栽培の「幸水」の出荷が終了しました(8月16日頃)。やや小玉傾向ですが、糖度は11%後半～12%と高く、日焼け果が一部発生したものの、品質は概ね良好です。今年度の出荷開始は、前年より生育が前進化し、5日(7/23)早くなりました。露地栽培の「豊水」も出荷を開始しました。高温少雨の影響で、日焼け果の発生が懸念されます。日焼け果の発生や果実品質の状況をみながら、適期収穫を徹底し、収穫後の果実への直射日光を避け、品温上昇を防ぎましょう。今後、カメムシの多発期となるため、早めの対策を行いましょう。

◇トルコギキョウ◇

夏季出荷作型(6～9月)の出荷が続いています。販売単価は、他の草花が猛暑によ

り減少する中、安定した出荷で高くなりました。秋出荷作型（10～11月出荷）の定植は8月中旬で概ね終了しました。定植後の生育は、高温の影響で抽台がやや早いですが、概ね順調です。秋出荷作型では定植後、抽台開始まで十分なかん水を行いましょう。定植後の遮光は、晴天でも過度な遮光は避け、1週間程度で資材を除去しましょう。また、夜蛾類対策を徹底しましょう。

◇肉用牛◇

和牛去勢の7月の枝肉単価は前月の2,435円/kgより若干上昇し、前年比103%、過去5年平均比では111%でした。省令価格は前年比103%、過去5年平均比では101%と、ほぼ前年並みです。高温が続いているので、十分な送風と遮光、屋根散水等による対策を徹底し、ビタミン・ミネラルを通常時期より増強しましょう。また、農場の衛生管理を徹底しましょう。